

高学年総合「平和の願いを届けよう」

「そば打ち名人になろう！」

平和の願いを届けよう

まず、「折り鶴にこめられた願いについて知ろう。」ということで、オバマ大統領がスピーチを行った新聞記事や「サダコと千羽鶴」の絵本を読みました。子どもたちは、折り鶴には、たくさんの人が平和を願う気持ちがこめられていると感じ、全校生にも呼びかけ、6年生が修学旅行の際に持っていく千羽鶴を作ることになりました。

絵本を通して、広島の現状を知りましたが、当時母子では、どんなことが起こっていたのかを調べることになりました。

地域の方にお話を聴こう①

始めに、戸出多寿子さん・檜田政子さん・塚本せつ子さんに学校に来ていただき、ご自分が経験された戦争時代のお話を聞かせていただきました。



お話の始めに、業間休みの終わりを知らせるチャイムが鳴りました。そのことから、小学生のときにはチャイムがなく、焼夷弾をたたいて、その音がチャイムの代わりになっていたお話をしてくださいました。

多寿子さんと政子さんが小学生のときは、毎日、運動場を耕してさつまいもを作ったり、山にわり木や炭焼きに行ったりしていたそうです。家から麦ご飯・うめぼし・塩昆布を入れたお弁当を持っていったこと、白いご飯が食べられなかったので、麦ご飯にさつまいもを入れておかゆにして食べていたこと、山へ仕事に行く際には、おやつ袋に塩で味付けをした大豆を入れたり、生えているイタドリやゲジゲジに塩をつけたりして食べていたこと。戦争中は食べ物が少なく、毎日同じものを食べておられました。大豆のおやつがとても楽しみだったそうです。

また、せつ子さんは、学徒動員で舞鶴にあった「第3海軍火薬場」に行かれていたそうです。当時15歳で親元を離れ、寮に住み、働いておられました。月～土は、工場仕事、日は先生が来て、勉強をしていましたが、今とは違い国語と算数のみだったそうです。サイレンが鳴ると防空壕に入り、戦闘機が20～30機連なって飛んでいくのを隙間から見て、とても怖かったとお話してくださいました。せつ子さんのお兄さん3名も兵隊に行かれ、航空整備の仕事や落下傘部隊に所属していました。

「戦争なんて絶対したくない。大きらいや。」「戦争の話聞いてなくそうと思ったら、こうだからいやというのをはっきり言えるようになってほしい。」「今の子は幸せよ。」とお話して下さったことも子どもたちの心に本当によく響きました。

もっとたくさんお話を聞きたくなるようなすてきな時間でした。
多寿子さん、せつ子さん、政子さん、お時間をいただき、本当にありがとうございました。

【子どもたちの感想】

- ・わら人形に向かって竹やりの練習をしたり、舞鶴からトラックに乗せられて帰ってきたり、さつまいものおかゆで生活していたことは知りませんでした。知っていたことももっとくわしく知れてよかったです。
 - ・戦争中のくらしや学校や食事のことなど色々なことが分かってよかったです。今のくらしとは全く違って大変だったんだなと思いました。
 - ・食べ物が少なかったり、白いブラウスを緑に染めたり今では考えられないと思いました。白いブラウスを緑に変えないといけないのが大変だと思いました。今日は戦争中の大変さがとつても分かりました。
- 二度と戦争がないことを私は祈りました。

地域の方にお話を聴こう②

次に、神楽教室でもお世話になっている塚本昇先生に学校へお越しいただき、戦時中のお話をさせていただきました。

まず、母子小学校の場所が3回変わっていること・尋常小学校→国民学校→母子小学校と名前も変わっていることを教えていただきました。

そして、当時のご自分の生活の様子をお話いただきました。1・2年生のときは着物・帯・わら草履・風呂敷・お弁当（日の丸弁当）3・4年生では、学生服・ゴム靴・かばん、5・6年生では、お弁当（かつお・塩こんぶ）・帽子をかぶり、今の母子小学校の校章をつけておられたそうです。だんだんと持ち物が発展していく様子がよく分かりました。

そんな中、小学6年生のときに戦争が始まりました。食料増産ということで、家にお年寄りや子どもは食べ物を毎日作っていたそうです。小学校を卒業すると、農兵隊や挺身隊の学校に入られました。訓練をする学校に行くのが当たり前だったそうです。20歳になると体が弱い人以外は、赤紙が届き、兵隊に行かなければなりません。日の丸の旗を持ち、お宮さんに参り、学校で「行って参ります。後のことはよろしく頼みます。」と言って出兵して行かれ、万歳をしながら峠までお見送りをしたそうです。

17～18歳になると兵隊に志願できたので、お国のためにといい、みんな志願していったそうです。「赤紙が届いて『いやです。』と言ったらどうなるのですか。」という子どもたちのおたずねに対し、「当時は、早めに兵隊に行って出世することで一人前の男になれるとみんなが思っていた。国のために何でもする人が偉い人だとみんなが思い、体が弱くていけない人は情けないと嘆いていたんだよ。」と当時の考え方を教えてくださいました。昇先生もあと1年戦争が長く続いていたら兵隊に行かれていたそうです。



最後に、「子どもたちに伝えたいことはありますか。」とおたずねすると「私は伝えたいことは充分伝えた。こうして学校に来て、きれいな校舎でみんなが暮らしているのを見て、平和になったんだと思う。」とおっしゃいました。その言葉に何だか胸が熱くなりました。

昇先生、子どもたちにお話してくださる内容も丁寧にご準備いただき、本当にありがとうございました。

〈子どもたちの感想〉

- ・男子と女子で色々違うので、女子は、ブラウスを緑にしたりなどしてたりしたけど、男子は、18歳くらいになったら兵隊になって必ず行かないといけないのが違うんだなとよく分かりました。
- ・8年間も戦争が続いて、爆弾1つで建物が溶けてしまう威力があって、女子が働いたり、男子は志願して兵隊に行く人がいたりしたことが分かりました。
- ・今日は、昇先生のお話を聴いて、前に聴かなかった話がいっぱい聴けたし、戦争が終わった理由を知ったり、爆弾にどれだけの強さがあったりするのかが分かりました。
- ・戦争が終わった理由や戦争の歴史も教えてもらいました。昇先生は、いっぱいいろんな経験をしていることが分かりました。

平和の願いを劇にしよう

「地域の方から聞いたお話を聴いていない人にも戦争中の母子の様子を伝えたい。」ということで、母子芸術の集いで、劇にして観ていただくことになりました。

当時の時代背景や登場人物の感情を想像することに苦労しましたが、劇にして役を演じることで、より考えを深めることができました。

目指せ！そば名人！

そば栽培に挑戦！

2学期、そばを自分たちで栽培してみようということになり、時期は少し遅かったのですが、9月3日にそばを植えました。10日ほどで芽がでるはずが、大雨で流れてしまったのか、芽が出ませんでした。

そのため、次の週にもう一度そばを植えました。しかし、そばの芽は出ませんでした。子どもたちは、「まく時期が遅かった。」「種の保存の仕方が悪かった。」



と話し合っていて考えていました。

ドキドキわくわくそば打ち修行

11月29日に、永沢寺そば道場にて、和田良三さんにそば打ちを教えていただきました。

4月から「高学年でそば打ちをがんばりたい!」と言っていた子どもたち。いよいよこの日がやってきました。

一人一鉢、5人前のそばを作ることになり、自分専用の道具にドキドキしている様子でした。

「手を猫のようにして…。」「手前から向こうに押すようにして!」と時折、実演もしてくださり、とても分かりやすく教えてくださいました。

そばを切るのも5年生は初体験。細くなるように丁寧に切っていました。「うまいなあ!」とたくさん褒めていただきました。

和田さん、大変お忙しい中、教えていただきありがとうございました。

【子どもたちの感想】

・今日はそば打ちを教えてくださいありがとうございました。思っていた以上に楽しかったです。

次に自分たちでするときには水の分量を間違えないようにがんばりたいです。

・今日そば打ちがありました。今回で2回目でもとても難しかったです。いろいろな工程があって、棒を使って、伸ばすのがとてもおもしろかったです。

次学校でするときにうまくできるようにしたいです。

・今日、そばを打ってやっぱり和田さんは細くてきれいでうまいなあと思いました。

最初の方は、こねるのが難しかったけど、ちょっとそばができてよかったです。

少し太くなったけど、楽しかったです。お客さんがいる中で、ていねいに教えてくれて嬉しかったです。

そば打ちを学校でも練習し、細く切ることや水回しが大切だと本番に向けて意識を高めていきました。ふるさと感謝祭で地域の方に高学年の学習の成果としてふるまいました。「おいしいよ。」と声をかけていただき、そば打ちの学習を終えました。

